

鹿屋市の農業(耕種)



令和3年

鹿屋市農林水産課

目 次

1. 鹿屋市の概要	1
2. 地理的条件	2
3. 自然環境	3
4. 気象の概要	4
5. 鹿屋市の農業	5
1)農家戸数の推移	5
2)認定農業者の推移	5
3)男女別販売農家人口の推移	5
4)農業従事者の平均年齢	5
5)経営耕地規模別農家数(販売農家)推移	6
6)耕地面積の推移	6
7)農地集約等の実績	6
8)耕地利用状況	6
9)耕作放棄地の推移	6
6. 農業産出額	7
7. 主要作物の生産動向	8
1)水 稲	8
2)さつまいも	9
3)さといも	9
4)ごぼう	10
5)サラダごぼう	10
6)にんじん	11
7)ばれいしょ	11
8)だいこん	12
9)キャベツ	12
10)葉ねぎ	13
11)白ねぎ	13
12)ピーマン	14
13)キュウリ	14
14)ブロッコリー	15
15)ナス	15
16)花き	16
17)茶	17

1. 概要

【位置】 鹿屋市は、本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央部に位置し、大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点となっている。

【地勢】 市域北部には、日本の自然百選にも選ばれている壮大な高隈山系が連なり市域北部は、山林地帯となっている。

また、その南部には、国営第1号の畑地かんがい施設を持つ「笠野原台地」や「肝属平野」が広がり、市域中央部にかけて平坦地が続いている。

市域西部は、錦江湾に面しており、美しい海岸線が見られ、また、市域南部は、神代三山陵の一つである吾平山陵を有する山林地帯となっている。

【面積】 総面積: 448.33km²

【人口】 総人口: 100,572人
総世帯: 45,882世帯
(令和3年11月現在)



2. 地理的条件

沿革

- ・ 明治以前は、肝付氏、島津氏の統治下にあったが、明治4年廃藩置県が行われ、鹿屋郷、大始良郷、花岡郷、高隈郷と称した。
- ・ 明治22年4月1日、地方制度改正により鹿屋村、大始良村、花岡村、高隈村となる。
- ・ 大正2年1月の町制施行により鹿屋村は鹿屋町となり、昭和11年4月西原台地に海軍航空隊が誕生し現在の大枠が形成される。
- ・ 昭和16年5月市制施行により、鹿屋町、大始良村、花岡村が合併して鹿屋市となる。
- ・ 昭和30年1月高隈村を合併、また同33年1月垂水町新城のうち、根木原、桜町地区を鹿屋市へ編入
- ・ 平成の大合併により平成18年1月に鹿屋市と肝属郡の2町(吾平町・串良町)曾於郡1町(輝北町)との合併により新鹿屋市が誕生した。

地勢

総土地面積は、448.33km²、東西20km、南北41kmで市北西部の大篋岳(おおのがらだけ)標高1,237mを主峰とする高隈山系に源を発し、東へ流れる肝属川に沿って市街地が広がる。台地は、肝属川を挟んで東北部に笠野原台地、西南部に鹿屋原台地が広がっている。

市の中央部を流れる肝属川の沖積平野を中心とする肝属平野が広がる。
地質は、大隅半島特有のシラスと呼ばれる火山灰土である。

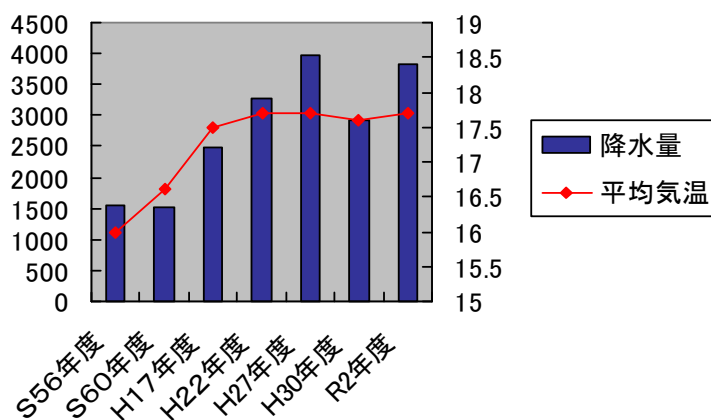
土壌

当市に広がる主な土壌は、丘陵傾斜面に見られるようにシラスを母材とした土壌がほとんどである。畑地に広く分布する土壌は、シラス層の上層に分布する黒ボク、黒ニガの土壌でその直下には赤ホヤが分布している。花岡地域には、上層部に赤ホヤが露出している畑地も見受けられるが、ほとんどの地域では上層は黒褐色の土壌で礫は混入せず腐食に富む土壌である。

また、黒ボク層の砂壤土に未風土の細小礫を含む土壌も一部に分布している。

3. 自然環境

≪気象≫(1991~2020)
 西南暖地に位置する温暖湿潤気候型
 平均気温 17.6℃
 降水量 2,685.6mm
 日照時間 1,961.7時間



≪土壌≫

本市に広がる主な土壌は、丘陵緩斜面に見られようにシラスを母材とした土壌がほとんどである。
 畑地に広く分布している土壌は、シラス層の上層に分布する黒ボク、黒ニガの土壌でその直下には、赤ホヤが分布している。



≪笠野原畑地かんがい事業≫

全国における、国営畑地かんがい事業第1号として実施された。
 笠野原台地は南北16km東西12kmに広がる総面積6,300haの広大なシラス台地である。



4. 気象の概要

鹿屋市の平均降水量は、2,685.6mm、平均気温は17.6度平均日照時間は1,961.7時間である。年降水量は2015年が最も多く、6月からの3ヶ月で2,519mmと、年間3,970mmの6割以上を占めている。最小を記録したのは、1994年の1,847mmであり、30年間で2,000mmを下回ったのは1994年、1997年、2009年の3ヶ年である。

平均気温は、1997年以降は17度を下回っておらず、国内では比較的温暖といえる。

鹿屋市の気候

月	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日最高気温 (°C)	日最低気温 (°C)	日照時間 (時間)
1月	80.3	7.5	12.8	1.9	151.5
2月	119.2	8.8	14.2	3.0	152.1
3月	173.2	11.8	17.0	6.3	167.5
4月	196.9	16.0	21.3	10.4	176.6
5月	219.8	20.0	25.1	15.1	173.2
6月	623.0	23.0	26.9	19.7	99.6
7月	425.6	27.0	31.3	23.6	183.7
8月	282.9	27.5	32.1	23.9	202.0
9月	288.2	24.9	29.7	21.0	161.1
10月	138.3	20.0	25.4	15.1	176.9
11月	100.6	14.5	20.2	8.9	157.6
12月	77.5	9.4	15.0	3.5	156.6
年	2,685.6	17.6	22.6	12.7	1,961.7

資料：鹿児島地方気象台(1991～2020)

5. 鹿屋市の農業

◎鹿屋市の農家数は、20年前に比べ約45%減少している。

また、最近の5カ年で58名の新規就農者が確保されているが、今後も、地域の農業を担う認定農業者や新規就農者等担い手の確保、育成が重要である。

1) 農家戸数の推移

単位：戸

年次	総数(戸)	自給的農家	販売農家数(戸)	販売農家		
				専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
平成2年	9,002	2,086	6,916	2,948	1,658	2,310
平成7年①	7,597	1,941	5,656	2,351	1,024	2,281
平成12年	6,760	1,996	4,764	2,262	779	1,723
平成17年	6,059	2,106	3,953	2,245	629	1,079
平成22年	5,318	2,029	3,289	2,125	353	811
平成27年②	4,115	1,696	2,419	1,628	259	532
比較②-①	△3,482	△245	△3,237	△723	△765	△1,749

資料：農林業センサス

2) 認定農業者の推移

単位：経営体・人

年次	戸別経営体	組織経営体	認定農業者数	新規就農者数
平成18年	603	88	691	24
平成23年	556	103	659	10
平成24年	562	106	668	27
平成25年	548	103	651	25
平成26年	554	105	659	18
平成27年	542	107	649	11
平成28年	532	111	643	12
平成29年	528	117	645	12
平成30年	527	120	647	14
令和元年	527	126	653	9

資料：鹿屋市農林水産課

3) 男女別販売農家人口の推移

単位：人

年次	男女別世帯員数			男女別農業従事者数		
	計	男	女	計	男	女
平成12年	13,576	6,755	6,821	8,570	5,538	3,032
平成17年	10,416	5,255	5,161	8,320	4,477	3,843
平成22年	8,361	4,257	4,104	6,949	3,744	3,205
平成27年	103,662	49,565	54,097	5,096	2,739	2,357

資料：農林業センサス

4) 農業従事者の平均年齢

単位：歳

年次/項目	農業就業人口	基幹的農業従事者
平成12年①	61.7	62.6
平成17年	65	65.1
平成22年	65.4	65.4
平成27年②	66.5	66.6
比較②-①	4.8	4.0

資料：農林業センサス

5) 経営耕地規模別農家数(販売農家)の推移

単位:経営体

年次	販売農家における経営耕地面積規模別経営体数						
	~0.3ha	0.3~0.5ha	0.5~1ha	1.0~1.5ha	1.5~2.0ha	2.0~5.0ha	5.0ha以上
平成12年	84	830	1,631	877	486	689	167
平成17年	88	681	1,260	683	407	641	193
平成22年	54	503	954	585	345	594	274
平成27年	39	356	647	417	240	480	291

資料:農林業センサス

6) 耕地面積の推移

年次	計 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	畑			1戸当り 耕地面積 (a)	鹿児島県 1戸当り 耕地面積 (a)
				普通畑	樹園地	牧草地		
平成12年	11,010	2,507	8,507	8,000	397	120	148	132
平成17年	10,700	2,360	8,390	7,840	431	120	177	141
平成22年	10,400	2,310	8,090	7,531	439	120	196	157
平成27年	10,200	2,290	7,950	7,395	435	120	249	188

資料:農林業センサス

◎鹿屋市の耕地は、水田が約2割、畑地が8割である。

平成27年の耕地面積は、10,200haで平成12年と比較すると810haの減少となっている。

また、農家1戸当りの耕作面積は、平成12年から約101a増え249aとなり着実に拡大が進んでいる。

7) 農地集約等の実績

単位:ha

年度/項目	農地集約実績(利用権設定)		耕作放棄地解消実績
		うち中間管理権	
平成26年度	365		3.3
平成27年度	442	104	4.0
平成28年度	417	103	4.1
平成29年度	442	138	1.7
平成30年度	445	107	4.5
令和元年度	415	58	1.2

資料:農林水産課・農業委員会

8) 耕地利用状況(平成28年)

単位:ha

作目	水稻	落花生 そば	甘藷	野菜 パレイシ	果樹、花卉	茶	飼料作物	計
鹿屋市	1,200	184	1,683	1,413	59.8	371	1,299	6,210

資料:大隈地域の農業

◎耕地の利用率は、10,200haの61%であり、裏作を含めた有効活用の余地がある。

9) 耕作放棄地の推移

地区	平成23年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)
鹿屋地区	3,926	438	4,000	343	4,410	375	3,787	319
輝北地区	1,001	156	795	104	1,141	153	1,053	140
串良地区	1,333	156	571	58	637	63	661	67
吾平地区	954	92	604	58	929	92	712	64
合計	7,214	842	5,970	563	7,117	684	6,213	590

資料:鹿屋市農業委員会

6. 農業産出額(令和元年度)

鹿児島県の農業産出額	48,900千万円
鹿屋市	4,546千万円(県内9.3%)
うち耕種	1,124千万円
畜産	3,403千万円
加工農産物	19千万円

1) 鹿屋市の農業産出額 (単位: 千万円)

年度	産出額	内 訳		
		耕種部門	畜産部門	加工農産物
平成26年	3,882	1,026	2,828	28
平成27年	4,008	1,050	2,924	35
平成28年	4,313	1,141	3,135	37
平成29年	4,559	1,176	3,340	43
平成30年	4,422	1,048	3,336	39
令和元年	4,546	1,124	3,403	19

資料: 市町村別農業産出額(推計) 農林水産省

注: ラウンドのため計は一致しない。

2) 令和元年度農業産出額内訳 (単位: 千万円)

農産物生産額 A+B+C	耕種 A									加工 農産物 B	畜産 C				
		米	落花生 そば	甘藷	野菜	果樹	花卉	工芸 農作物	その他			肉用牛	乳用牛	豚	鶏
4,546	1,124	122	2	222	439	4	265	64	8	19	3,403	1,898	150	1,027	328

注)・パレインヨは野菜に含む。

資料: 市町村別農業産出額(推計) 農林水産省

- ・さつまいもは、青果、加工、焼酎等
- ・加工農産物は荒茶

7. 主要作物の生産動向

1) 水 稲

◎本市の稲作は、飯米農家が主流であり、1戸当りの作付面積も約20aでほとんどの農家が、他の作物との複合経営か兼業農家である。また、販売農家においては、完熟堆肥、水管理、適期防除、適期管理作業を徹底し、美味しい米づくりに努めている。



山間地の稲作風景



コンバインによる収穫

作期別作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区分	水 稲			早期水稲			普通水稲		
	作付面積	10a当り収量	収穫量	作付面積	10a当り収量	収穫量	作付面積	10a当り収量	収穫量
平成19年	1,219	353	4,303	604	234	1,413	615	472	2,903
平成23年	1,271	457	5,808	454	447	2,029	817	466	3,807
平成24年	1,297	444	5,759	487	429	2,089	810	458	3,710
平成25年	1,288	449	5,783	496	437	2,167	792	461	3,651
平成26年	1,273	421	5,359	477	363	1,731	795	459	3,649
平成27年	1,300	418	5,436	487	354	1,727	813	456	3,709
平成28年	1,177	416	4,895	457	349	1,593	720	459	3,302
平成29年	1,043	414	4,323	444	350	1,552	599	463	2,771
平成30年	1,050	462	4,870	310	468	1,450	744	460	3,420
令和元年	1,150	448	5,160	440	451	1,980	711	446	3,170

資料: 大隅地域の農業

2) さつまいも

◎これまで、防災営農作物として、澱粉用、加工用、焼酎用さつまいもが定着している。

さつまいもと秋冬作の輪作体系を確立させることで農家の経営安定を図る。



「べにはるか」



「べにはるか」の収穫風景

「さつまいも」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	2,098	1,916	1,759	1,862	1,688	1,675	1,670	1,639
10a当り収量	2,911	2,798	2,737	2,602	2,683	2,385	2,114	2,293
収穫量	61,064	53,618	48,155	48,455	45,288	39,955	35,311	37,587

資料：大隅地域の農業

3) さといも

◎さといもの生産面積は、昭和42年の笠野原畑かん通水とともに急激に拡大した。

昭和60年頃には、鹿屋市全体で1,000haまで拡大したが連作障害等で減少し、最近では輪作体系による高品質のさといもが生産されるようになった。



畝間灌水



「さといも」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	184	144	157	157	146	157	145	145
10a当り収量	1,810	1,619	1,976	1,851	1,886	1,760	1,783	1,916
収穫量	3,330	2,323	3,097	2,906	2,750	2,763	2,586	2,772

資料：大隅地域の農業

4) ごぼう

◎温暖な気候と土壌条件が栽培に適していることや、機械化が確立していることから土地利用型農業の輪作体系作物の1つとして期待されている。



畑かんの推進作物として有望な「新ごぼう」



機械化体系の確立により、栽培面積も増加

「ごぼう」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区 分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	122	119	116	122	122	125	126	127
10a当り収量	2,014	1,780	1,550	1,413	1,377	1,538	1,540	1,654
収穫量	2,457	2,113	1,798	1,724	1,685	1,930	1,940	2,100

資料：鹿屋市農林水産課

5) サラダごぼう

◎風味がよくサラダ等に利用できることから、若者主婦層にも人気が高く需要も拡大してきた。

作型の広がりにより作付面積が拡大

「サラダごぼう」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区 分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	10	61	69	80	101	98	93	98
10a当り収量	1,090	832	859	739	772	768	703	784
収穫量	109	508	592	594	780	755	653	770

資料：鹿屋市農林水産課

6) にんじん

◎近年の生産技術の向上により、10a当りの収量は約3,500kgで安定している。

また、土地利用型農業の輪作作物としても期待されており、大規模法人を中心に作付面積も90ha～100ha以上で推移している。



ニンジン収穫状況



キャロットジュース

「にんじん」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	92	104	109	110	111	112	95	117
10a当り収量	4,074	4,105	3,567	3,466	3,448	3,419	3,599	3,504
収穫量	3,748	4,269	3,888	3,830	3,840	3,819	3,423	4,103

資料：大隅地域の農業

7) ばれいしょ

◎春植えの加工用契約栽培が主となっている。今後も、温暖な気候を利用した加工ばれいしょを中心に早掘ばれいしょを含め面積拡大に努め産地形成を図る。



加工ばれいしょ



ハーベスタを使った収穫風景

「ばれいしょ」作付面積・収穫量

単位：ha、kg、t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	190	121	128	128	130	127	133	129
10a当り収量	3,021	2,942	3,026	2,744	2,716	2,767	2,646	3,980
収穫量	5,740	3,560	3,873	3,502	3,520	3,520	3,520	3,088

資料：大隅地域の農業

8) だいこん

◎加工だいこんを中心に青果、干し大根がさつまいもとの輪作作物として栽培されている。



「だいこん」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	243	294	299	300	299	300	310	306
10a当り収量	5,902	4,567	4,352	4,412	4,323	4,283	4,847	4,455
収穫量	14,341	13,428	13,013	13,235	12,948	12,861	15,016	13,624

資料：大隅地域の農業

9) キャベツ

◎串良町、小野原町が市内の主産地を形成しており、また細山田地区においては、周年出荷を行なっている。



「キャベツ」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	115	121	153	151	158	158	153	154
10a当り収量	3,843	3,629	3,810	3,620	3,735	3,648	3,733	3,866
収穫量	4,420	4,399	5,830	5,481	5,890	5,775	5,731	5,966

資料：大隅地域の農業

10) 葉ねぎ

◎国産の安全・安心な野菜を求めることから周年出荷による面積が拡大してきた。



「葉ねぎ」作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区 分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	27	88	92	86	86	82	86	86
10a当り収量	1,885	1,361	1,350	1,799	1,762	1,852	1,997	2,001
収穫量	509	1,194	1,242	1,549	1,515	1,513	1,721	1,717

※年間3回転の延面積

資料: 大隅地域の農業

11) 白ねぎ

◎一時期、中国産との競合により面積が減少したが、消費者の国産嗜好の高まりにより近年では、秋冬ねぎ、ハウスねぎ、夏ねぎと長期に販売を展開している。



「白ねぎ」作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区 分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	37	38	36	39	40	36	36	36
10a当り収量	2,751	2,530	2,532	2,292	2,320	2,308	2,338	2,294
収穫量	1,018	972	901	896	935	840	844	826

資料: 大隅地域の農業

12) ピーマン

◎県の広域ブランド品目、国の指定産地にも指定され、畑地かんがい施設を用いた高収益作物であるとともに価格補償制度も充実しているため、より一層の安定出荷を図る必要がある。



生産額 県内3位
 ブランド産地の東串良、志布志を中心に生産されている。
 東串良町は、鹿児島ブランド野菜に指定されている。H4. 3月
 鹿屋では串良、吾平地区で多く栽培されている。

「施設ピーマン」作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	8.0	8.3	9.5	9.8	12	14.3	14.7	14.7
10a当り収量	15,000	15,964	13,548	13,654	10,906	12,835	13,619	13,985
収穫量	1,200	1,325	1,287	1,338	1,309	1,835	2,002	2,056

資料: 大隅地域の農業

13) キュウリ

◎県の広域ブランド品目、国の指定産地にも指定され、畑地かんがい施設を用いた高収益作物であるとともに、価格補償制度も充実しているため、より一層の安定出荷を図る必要がある。



生産額 県内東串良町に次いで2位
 串良地区で多く生産されている。
 H20. 5月に鹿児島ブランド野菜に指定されている。

「施設きゅうり」作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	4.0	3.2	3.4	3.5	3.8	3.7	2.9	2.7
10a当り収量	15,400	20,172	17,059	20,114	17,358	21,809	22,334	19,877
収穫量	616	646	580	704	660	807	648	537

資料: 鹿屋市農林水産課

14) ブロッコリー

◎小野原町に昭和50年代から本格的に導入され市町単独面積では、県内1を誇る産地となっている。また、品種改良が進み11月から5月までの長期出荷が可能になっている。

なお、肝属中部畑地かんがいの受益地においては、さつまいもとブロッコリーの輪作体系が可能なおことから畑かん整備地域に導入し面積の拡大を図っているところである。



肝属中部地区における
ブロッコリー栽培



「ブロッコリー」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	46	45	43	46	45	43	42	42
10a当り収量	1,165	960	619	717	788	813	849	709
収穫量	536	427	266	330	357	346	356	300

資料:大隅地域の農業

15) ナス

◎ピーマン、キュウリに次ぐ新たな施設園芸作物として導入された品目である。

畑地かんがい施設を用いた高収益作物であり、栽培技術の高位平準化を図ることで経営の安定を図る必要がある。



吾平町で栽培され京浜地方
を中心に出荷されている。

「施設ナス」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
作付面積	2.6	2.3	2	2	1.7	1.4	1.3	1.6
10a当り収量	10,615	10,000	10,400	10,400	10,300	10,186	11,346	12,500
収穫量	276	230	208	208	175	143	148	200

資料:鹿屋市農林水産課

16) 花き(輪菊)(スプレー菊)(テッポウユリ)

◎鹿児島県は、花の生産量、消費量ともに全国トップクラスにある。

現在は、全国的に花の消費が減少しておりフラワーバレンタイン(男性から女性へ花を贈る)なるものが全国展開されている。

◎輝北地区においては、冷涼な気候により花色の優れたスプレー菊が生産され全国有数な産地となっている。

◎輝北地区のスプレー菊は、「そお・かのやのスプレーギク」として鹿児島ブランドに指定されている。

平成23年5月27日指定

輪菊



スプレー菊



テッポウユリ



「花き」作付面積・収穫量

単位: a・千本

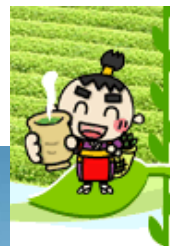
区分	輪菊		スプレー菊		テッポウユリ	
	作付面積(延べ)	出荷量	作付面積(延べ)	出荷量	作付面積(延べ)	出荷量
平成19年	1,196	4,106	1,642	8,372	290	520
平成23年	1,150	4,309	2,338	9,057	240	480
平成24年	1,125	3,972	2,527	8,674	235	440
平成25年	1,020	3,053	2,611	7,710	205	358
平成26年	1,013	3,040	3,217	7,889	182	326
平成27年	990	2,926	2,450	7,069	181	323
平成28年	979	2,810	1,718	6,356	131	263
平成29年	961	2,916	1,640	5,558	83	195
平成30年	940	2,816	1,617	5,093	70	164
令和元年	910	2,675	1,520	4,452	68	131

資料: 鹿屋市農林水産課

17) 茶

◎笠野原台地、西原台、曾於南部の畑地かんがい施設を利用した多種にわたる茶の栽培によりこれまで順調に面積拡大されてきた。 今後は、消費者の嗜好や流通形態の変化に対応するため地域の優位性を生かした産地化、生産農家の経営安定を図る必要がある。

笠野原台地における乗用摘採機による摘採(収穫)



大型荒茶加工施設
(グリーンティかのや)



「茶」作付面積・収穫量

単位:ha・t・円

区 分		平成19年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
栽 培 面 積		370	367	370	369	369	363	356	356
荒茶生産量		938	1,160	1,161	239	227	850	866	814
荒 茶 価 格	鹿屋市	1,550	812	874	796	820	936	788	667
	県平均	1,246	924	948	911	1,044	1,097	891	789

資料:鹿屋市農林水産課